

13: 成人 T 細胞白血病リンパ腫(ATL)

1. WG メンバーリスト

氏名	所属	診療科
責任者 加藤 光次	九州大学病院	血液・腫瘍・心血管内科
石田 高司	名古屋市立大学病院	血液・腫瘍内科
宇都宮 與	公益財団法人慈愛会 今村総合病院	血液内科
鈴宮 淳司	島根大学医学部附属病院	腫瘍・血液内科
高塚 祥芝	公益財団法人慈愛会 今村総合病院	血液内科
田野崎 隆二	慶応義塾大学医学部	輸血・細胞療法センター
東梅 友美	山形大学大学院医学系研究科	内科学第三講座血液・細胞治療内科学分野
中瀬 浩一	愛媛県立中央病院	血液内科
名和 由一郎	愛媛県立中央病院	血液内科
菱澤 方勝	京都大学医学部附属病院	血液・腫瘍内科
福島 卓也	琉球大学医学部	保健学科病態検査学講座血液免疫検査学分野
増田 昌人	琉球大学医学部附属病院	がんセンター
和氣 敦	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院分院	血液内科
崔 日承	独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター	血液内科
朝倉 義崇	日本赤十字社 沖縄赤十字病院	血液内科
中野 伸亮	公益財団法人慈愛会 今村総合病院	血液内科
藤原 弘	愛媛大学医学部附属病院	第一内科
町田 真一郎	東海大学医学部附属病院	血液腫瘍内科
澤山 靖	長崎大学病院	血液内科(原研内科)
多田 耕平	国立がん研究センター 中央病院	血液腫瘍科・造血幹細胞移植科
井上 明威	熊本大学医学部附属病院	血液内科
今田 和典	大阪赤十字病院	血液内科
吉田 功	独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター	血液腫瘍内科
吉満 誠	鹿児島大学病院	血液・膠原病内科
藤 重夫	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター	血液内科
福田 隆浩	国立がん研究センター 中央病院	造血幹細胞移植科
進藤 岳郎	京都大学医学部附属病院	血液・腫瘍内科
徳永 雅仁	公益財団法人慈愛会 今村総合病院	血液内科
村主 啓行	京都大学大学院医学研究科	血液・腫瘍内科

2. 会議開催記録(2017 年 1 月-12 月)

日時	場所	会議内容
2017 年 1 月 8 日 (第 17 回)	国立がんセンター中央 病院	「染色体異常がATLに対する同種移植成績に及ぼす影響」の二次調査進捗状況について中野先生より報告。井上先生「ATLにおける移植前処置に関する検討」、中野先生(研究協力者:徳永先生)「近年のATLにおける臍帯血移植の成績向上とその位置づけ」、藤先生「ATLに対する同種移植におけるGVHD発症率の変化が予後に与える影響」の各先生より、新規提案が出された。また、TRUMP データ入力追加項目に関して、議論した。(参加数 12 名)
2017 年 3 月 2 日 (第 18 回)	くにびきメッセ会議室 305/306 号室	「染色体異常がATLに対する同種移植成績に及ぼす影響」の二次調査および中野先生(研究協力者:徳永先生)「近年のATLにおける臍帯血移植の成績向上とその位置づけ」について解析結果の報告がされた。(参加数 5 名)
2017 年 7 月 9 日 (第 19 回)	名古屋第一赤十字病 院会議室4	中野先生「染色体異常がATLに対する同種移植成績に及ぼす影響」の二次調査、井上先生「ATLにおける移植前処置に関する検討」、中野先生(研究協力者:徳永先生)「近年のATLにおける臍帯血移植の成績向上とその位置づけ」、澤山先生「ATLに対する同種移植後の感染症に関する検討」、藤先生「ATLに対する同種移植におけるGVHD発症率の変化が予後に与える影響」、吉満先生「ATLにおけるドナーの検討:親子間移植に関する検討」の各先生より、研究の進捗状況についてご報告頂いた。(参加数 11 名)

3. メーリングリストによる意見交換 (メーリングリスト開設から 2017 年 12 月末時点まで) (2414)回

4. WG の今後の活動方針・抱負など

2017 年は、打ち合わせ会 3 回開催であり、論文 1 編、学会発表 1 演題であった。

新薬時代においても、予後不良な ATL に対して、造血細胞移植は依然重要な役割を果たし、その移植件数も年々増加している。確かに、ATL に対する同種移植は標準治療としてその位置付けは確立されているが、他疾患と比較した場合、依然その移植成績は不良である。ATL に移植が導入されて約 20 年過ぎた今、今後の成績向上を目指すにあたり、ATL に対する移植治療の最適化を目指す研究が再度必要と考えられる。2017 年は、前処置、ドナーソース、感染症、GVHD など、近年の変化／進歩を明らかにする新規研究課題が提案されており、移植最適化のための改善点を明らかにする研究をさらに進めていく。また、ATL の発症／進展メカニズムが明らかになる中、臨床データから基礎研究に繋がるような研究も展開したいと考えている。

希少疾患であり、本邦で集積されたデータの情報発信は、世界的に重要である。ATL-WG 内で、今まで以上に積極的な議論を行い、ATL 移植成績向上のための基盤となるような研究を進めていきたい。